

令和
7
年度 | 大江町
地域おこし協力隊
活動報告書



大沼瑞季

「まちなか交流館拠点のにぎわいづくり」

おおぬま
みずき



3年目

出身地 ● 山形県寒河江市
着任 ● 令和4年8月

寒河江市出身で左沢高校に進学。高校時代は地域の方と関わる機会が多く、週末にはボランティア活動に積極的に参加。縁屋で行われていた旧きらやか銀行跡地の利活用を考える「まちづくり交流会」に参加したことが、高校生の私にとって当事者の1人として大江町に関わるきっかけとなりました。その後、そうした経験を踏まえやはり人と関わる仕事に就きたいと考え、地元寒河江市のビジネスホテルと観光ホテルで勤務し接客スキルを身につけました。

大江町でのイベントを通じて地域おこし協力隊の募集を知り、令和4年に着任。「ATERA」として再スタートした施設に再び関われることをうれしく思っています。これまでにマルシェイベント「つむぎ結縁市」や展示企画「ぶくちゃん展」、ぬいぐるみ制作などに取り組んできました。昨年5月から1年間の産休・育休を経て、令和7年5月より活動を再開しています。

はじめに

お休みをいただいている期間、町民として様々なことに気が付けた1年であったと同時に、自分だからできることを再確認できた1年でした。子育てを経験して見えてきたことを今後の活動に活かしたい、と決意を新たに活動を再開しました。ふるさとCMへの出演など、新しい経験の多い活動期間となりました。

ミニミニ盆踊り

復帰後の企画を考えるにあたり、自身のミッションを見直しました。商店街について改めて調べる中で、かつておこなわれていた盆踊りの存在を知りました。

地域の方にお話をうかがう中で、少子化やコロナ禍の影響により盆踊りが長らく開催されていないことがわかりました。以前の様子を聞くと、大変盛り上がっていた行事であったこともうかがえました。また、「当日はメイン会場の方ばかりに行ってしまう、青竹提灯がきれいなのに商店街には人通りがなくてさみしい」という声もありました。そこで、住民の方も集まりやすい商店街通りに面する立地を生かし、花火客の方にも立ち寄りてもらいやすい、ポケットパーク（左沢中央通り公園）を会場に選びました。

実行するにあたり、曲も踊りもイチから教えていただく必要がありました。急にお声掛けしてもみなさん快く教えてくださり、「○○さんならわかるかもしれない！今度紹介するね」と自然に輪が広がりました。地区の渡辺さんに竹灯籠のご提案をいただき、工夫を凝らし心こもった作品のご制作もいただきました。

盆おどり
8.15 金
17時～19時
会場 7町内 ポケットパーク
(左沢中央通り公園)
連絡: 地域おこし協力隊 大沼瑞季 大江町まちなか交流館ATERA 0237-84-7770

神保南

じんぼ
みなみ

「めざせ、野遊びマスター」



3年目

出身地 ● 群馬県前橋市
着任 ● 令和5年4月



私は群馬県前橋市出身で、大学進学を機に栃木県宇都宮市へ移住し、その後就職しました。大江町に来るきっかけは、「おためし地域おこし協力隊」という2泊3日のイベントに参加したことです。このイベントでは、大江町の方々と交流や自然体験、協力隊制度の説明が行われ、自然に関わる仕事をしたいという思いがあった私には、大江町はとても魅力的な町に感じたことを覚えています。その後、地域おこし協力隊として着任し、「大江町山里交流館やまさあべ」を拠点に現在活動しております。ここでは主に小学生やファミリー向けのイベント企画・運営に携わっており、今年度で活動3年目になります。



活動のミッションと活動拠点について

私のミッションは、「野外活動のサポート」です。活動拠点である大江町山里交流館やまさあべでは、ネイチャーガイドとして所属し、自然体験プログラムを中心としたさまざまなイベントの企画や、イベント当日のガイドを担当してきました。日々の活動を通して、子どもたちが自然の中で思いきり体を動かし、学び、楽しむ時間をつくることを大切にしてきました。今年度も、季節に応じた多様なイベントを実施し、自然と直接触れ合う体験を通して、地域の魅力や自然の豊かさを感じてもらえる機会をつくることができましたと感じています。



平日開催への挑戦「金曜夜のモモンガ観察会」

今年度、新たな試みとして企画したのが、平日開催の「金曜夜のモモンガ観察会」です。モモンガの観察自体はこれまでも開催してきましたが、夜行性であるモモンガの特性を生かすことで、平日でも集客が見込めるのではないかと考え、実施しました。5月9日と5月23日の2回開催し、4家族16名の参加があり、平日イベントの滑り出しとしては手応えを感じる結果となりました。既存の自然資源を少し視点を変えて活用することで、利用者のニーズに応えられる可能性があるという学びを得ることができ、今後の企画づくりにもつながる経験となりました。

町内子ども向け自然体験「生き物キッズラボ」

「生き物キッズラボ」とは、やまさあーべのスタッフがぶくらすへ出張し、放課後の子どもたちを対象に開催する自然体験イベントです。私は全4回のうち、ザリガニ釣りの回を担当しました。一見するとシンプルな内容ですが、伝えなかったテーマは、アメリカザリガニが指定されている「条件付き特定外来生物」についてです。ザリガニ釣りという遊びを通して、こちらから伝えたいメッセージを、子どもたち自身が楽しみながら学ぶ時間となりました。遊びの中で知ることで、生きものや自然環境について考えるきっかけをつくることができたと感じています。



子どもだけで参加する宿泊イベントへの取り組み

イベント企画の中でも、特に力を入れて取り組んだのが、子どもだけで宿泊するイベントの企画です。キャンプをテーマとした小学校高学年から中学生向けの宿泊イベントのほか、水遊び、雪遊び、料理をそれぞれテーマとした小学生向けの宿泊イベントを企画しました。これらのイベントでは、遊びの楽しさはもちろん、保護者の方の手を離れて子どもたちが過ごす時間を、どのように安全で充実したものにするかを常に意識してきました。生活面や安全面への配慮、スタッフ体制、緊急時の対応など、事前準備には多くの時間を要しましたが、その分、子どもたちが楽しむ姿や成長を間近で感じられる貴重な機会となりました。

参加者の多くは町外の子供たちですが、それはやまさあーべの活動内容や大江町の自然環境が、町外から見ても魅力的なものとして受け取られている結果であると感じています。こうした取り組みを通して、将来的に大江町のファンとなる関係人口の創出にもつながっていくことを期待しています。

新たな冬の体験づくり「雪板」

この冬には、新たな体験プログラムとして「雪板」の製作にも取り組みました。雪板とは、スキーやスノーボードのような足の固定具を使わず、一枚の板に乗って雪の上を滑る遊びで、イベント開催に向けて準備を進めています。市販品を揃えるには現実的でない費用がかかることから、製作から行うことを決めました。製作にあたっては、県内で雪板の製作体験を行っている場所を訪れ、実際に体験しながら作り方を学びました。構想、製作、試乗を繰り返し、コストや製作時間、乗り心地を考えながら、自分なりに納得のいく形に仕上げることができたと感じています。なお、この報告書作成時点ではまだイベント開催前のため、開催の様子などについては報告会の中でお話しできればと思います。



任期を終えて

今年度をもって、地域おこし協力隊としての任期は終了となります。3年間、多くの方に温かく迎えていただき、支えていただいたことに心から感謝しています。町の方々とつながりは、私自身の活動の大きな支えとなりました。協力隊としての活動は一区切りとなりますが、来年度からはやまさあーべの正式なスタッフとして、引き続き大江町に関わっていきます。これまでに培ってきた経験を生かしながら、大江町の自然の素晴らしさや、野外活動の楽しさを、より多くの方に伝えていきたいと考えています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

宮西優輔

みやにし
ゆうすけ

「ザワ線でGO!! JR左沢線の乗客を増やす仕事」



2年目

出身地 ● 東京都
着任 ● 令和6年9月

東京都出身、大学は青森県に進学しました。その後青森県内で就職し、令和6年9月に大江町にやってきました。あっという間にもうすぐ1年半が経過します。昨年は、着任後初めて「水郷大江夏まつり花火大会」を見物しました。3か所から打ち上げられる花火と、打ち上げ場所が近く迫力があり、初めは驚きました。また、当日は左沢線が満員となり、帰りの列車は行列が出来ており、人の出に感動しました。花火大会と同じ歴史のある左沢線の魅力も、よりお伝えしていきたいです。

大江町の
好きな食べ物

大江錦・左澤メンチカツ・かきたまラーメン・麻婆焼きそば
大江町の温泉・食・自然に育てられ身体も大きく成長中です(笑)

ザワ線でGO!! JR左沢線応援
【山形県大江町】



X (旧Twitter)



Instagram

やまがた あてらざわ 103フェス

左沢線全線開通100周年となった2022年から毎年4月に開催しているイベントは、町民の皆さまにとって広く浸透していると思います。昨年4月に開催した「やまがた あてらざわ 103フェス」は、着任後準備を重ね、今まで以上に鉄道コンテンツを強化することを目標としました。

初開催となったクイズ大会「目指せ! ザワ線マスター〇×クイズ」「ザワ線王決定戦」の問題作成と司会進行、ヘッドマークコンテストの実施、鉄道来場記念品の制作、若者が喜ぶキッチンカーの手配を担当しました。

鉄道来場記念品では、鉄道好きの方以外にも左沢線を使って来場していただけるよう沿線のゆるキャラを入れたステッカーを製作しました。当日は、鉄道ファン以外の方もステッカーを入手するため、多くご乗車いただきました。

フェス開催に向けて地域児童の参加とフェス開催を周知するため、「左沢線ヘッドマークコンテスト」を実施しました。町内の小学3年生から小学6年生を対象に募集したところ、全163点の応募がありました。優秀作品に選ばれた2作品は、会場を彩るヘッドマークになりました。また、全応募作品は左沢線を走行するキハ101系の車内に掲出していただきました。

クイズ大会は、今までのフェスでは行っていなかったステージイベントをやってみてはどうかとの提案を受け、開催しました。ザワ線王決定戦では、募集組数を越える応募があり、イベントの賑わいにつながりました。しかし、問題の難易度やヒントの用意が不足していたため、次回以降は改善し、より楽しみながら左沢線について皆様にご案内いただけるようさらにパワーアップさせ、104フェスで実施する予定です。





町内イベントの出店や 観光列車のお出迎え

町内で開催される各種イベントに出店し、左沢線グッズの販売やPRを行いました。毎年さくらんぼシーズンに運行される臨時列車のお出迎えを、観光ボランティアガイドの会、日本一くん、桃色ウサヒと一緒に行了いました。また、9月に運行された「おいしい山形秋まつり」号では、車内にて観光パンフレットと左沢線クリアファイルを配布しました。左沢線ファンが1人でも増えるように今後も活動していきたいと思ひます。

左沢線利用促進ツアー

令和7年11月30日(日)、左沢線を使った日帰りツアーを実施しました。昨年度の改善点を活かし、山形駅まで左沢線を利用し、その後は貸切バスで移動しました。魅力的なツアーにするため、目的地の選定や行程も綿密に打合せを行い決定しました。その結果決定したのが、「巳年に行く!金蛇水神社とゆりあげ港朝市」ツアーでした。当初は28人乗りの中型バスを想定しており、募集人員を25人として募集を開始しましたが、予想を上回るお申込みをいただき、急遽45人乗りの大型バスに変更し、なるべく多くの方にご参加いただけるよう調整を行いました。それでも多くの方からお問い合わせをいただき、募集当日に満員となりました。

当日は天候に恵まれ、左沢線1両の座席が埋まる程の人数で乗車しました。長らく左沢線に乗車していない方が多く、地元を走る公共交通としての左沢線を再度実感していただきました。今回の乗車をきっかけに、再び左沢線へご乗車いただければ幸いです。



プラレールで遊ぼう in あてらざわ

着任当初から左沢駅併設の大江町交流ステーションの利活用について考えていました。その際、靴を脱いで利用する多目的ホールで、のびのびとプラレールをしたら楽しそうだなと感じました。そこで、企画を計画し、検討を進めていました。1番頭を悩ませたのは、展示に用いるプラレール類です。多くのレールや車両が必要になります。

悩んでいたところ、天童市で高校生がプラレールのイベントを開催した新聞記事を見つけました。そこで、天童市在住の高校生に声がけをしたところ、喜んで協力していただきました。当日会場に準備されていたレールや車両は全て高校生のコレクションです。レイアウト内に再現されている住宅は手作り制作してました。

イベントは1日のみでしたが、試作には4日間に渡り大江町を訪れて準備をしていただきました。その成果もあり、当日は、町内外から234名の方にお越しいただきました。家庭では再現できない大きな部屋だからこそ可能なレイアウトに、多くの方が喜んでいました。

今後も左沢線に親しみを感じられるイベントを実施し、利用促進に繋げます。



小角 さくら

おずみ

「写真と文章で空き家を生かす仕事」(空き家バンク運営)



2年目

出身地 ● 山形県寒河江市
 着任 ● 令和6年12月

東北芸術工科大学、デザイン工学部で映像制作を学び、卒業後は上京して大手テーマパークや子ども写真館、振袖のレンタル業などを経験しました。協力隊着任を機にU (J) ターン、今では大江町の魅力にどっぷりハマっています。昨年夏には『くろべえナス』のおかげで、長年のナス嫌いを克服できました。空き家バンク運営のほかにも、町のカメラマンとして活動中です！

特技：写真、裁縫、和太鼓
 趣味：温泉巡り、相撲観戦
 好きなお酒：大江錦初しぼり
 好きな山の幸：ワラビ、こごみ、タラの芽、なめこ
 好きな場所：テルメ柏陵の露天風呂
 好きな景色：大山自然公園展望台からの眺め



おおえぐらしweb



OE LIFE YAMAGATA

Instagram

R103

左沢地区/売家

左沢街場の店舗付物件

オススメ Point

- 左沢駅や大江町役場、大型ドラッグストアから徒歩5分ほど
- 目の前にバス停 (山形交通) 有り
- 元大大会の会場も徒歩圏内！

経年数もめでこの価格！ 居住と店舗利用が同時に叶う物件です。

建物外見

道路に面した店舗部分が入り口です。目の前にバス停 (寒河江駅前一日目利設備) があります。
経年数ベースは驚異的な。 近々原簿改訂が予定なので、一階の店舗部分をビルトインガレージなどに改修するのもオススメです。



二階 廊下

階段を上ると、建物中心に一巡路の廊下があります。両サイドの窓から明るい日光が射し込みます。階段の横には作り付けの物置があります。



二階 南東和室

南下りの窓の部屋と良い。壁紙に沿って天井の作りが特徴的な、アトリエのようなデザインの間室。現在窓は閉まっていますが、高窓の窓からベランダに出ることができます。



「空き家バンク」の取り組み

私のミッションは主に、大江町の空き家バンク物件の魅力を伝えるための、写真撮影・紹介文の作成、情報発信です。前年度に引き続き、空き家バンクwebページの視認性を高めるため、画像やPR文章を追加しました。紹介記事を作成する際は、内覧前に物件の特徴がわかるように、オススメポイントや注意点などをわかりやすくまとめました。

「おおえぐらし」ホームページとInstagram運営のほかにも、道の駅や町内の温泉施設、飲食店にご協力いただき、空き家バンクのお知らせポスターやチラシを掲示しています。

作成した「登録物件募集」のチラシを町内で全戸配布するなど、使用していない物件の登録を促す取り組みも行いました。

また、全国に大江町の空き家バンクを知ってもらうため、「田舎暮らしの本（宝島社）」に情報提供を行い、書店で販売される誌面やwebサイトに、物件を掲載していただきました。

空き家対策のセミナーや、講演会などにも積極的に参加し、情報と知識を蓄えています。

物件宣伝ポスター

雪下ろし、ししやますしていませんか？

空き家バンク 登録物件 募集中です！

令和7年度だけで「大江町空き家バンク」で12件成約。ご家族・ご親戚での話し合いからはじめましょう！

町民の皆様へ

ご近所、集落内の空き家所有者にお会いする機会がありましたら、このチラシ裏面の「すぐに登録いただきたい理由」をお知らせください。

全戸配布チラシ

やりがいを確信した出来事

とある売り主さんが物件登録にお越しになった際に、「古い家だから売れるだろうか？」「取り壊したら何百万円かかるかわからない…」と、不安そうな顔をされていました。

それから二か月後、無事に成約となり、売り主さんは「安心しました。登録して良かったです！」と、晴れやかな笑顔で話されていました。

不安を安心へと変えるお手伝いができる。素晴らしいミッションだと、私自身が“やりがい”を確信した出来事でした。

見えてきた課題

大江町内でも、軒が折れ壁が崩れた「危険空き家」が増えています。一度この状態になると、修繕費が膨らむだけでなく、売却や賃貸に出すことすら不可能になります。大切な資産が負債に変わる前に、所有者に早めのバンク登録を促すことが最重要課題です。

空き家を所有されている方の中には、インターネットを普段使われない世代の方も多くいらっしゃいます。ネットでの情報発信だけでなく、チラシやポスター、「口コミ」による広報が効果的です。一つひとつは小さな積み重ねですが、これからも地域に根ざした活動を続けてまいります。



東京開催の移住セミナーへの参加

東京で開催された移住セミナーに4回参加してきました。会場では、大江町への移住を検討されている皆さんに、町の魅力やリアルな日常をお話しました。

私自身も首都圏からのUターン経験者。だからこそ、ネットの情報だけでは分からない「日々のちょっとした楽しさ」や、「田舎暮らしの注意点」など、役立つ体験談を直接お届けできたと感じています。

町内でのカメラマン活動

今年度は「大江町の“今”を記録する」をテーマに、神代カヤや榎山不動滝、松保の大杉といった町を代表する名所を巡りました。また、渇水時の最上川周辺など、普段はなかなか目にすることのできない貴重な風景を収めることもできました。

ひなまつりや花火大会、秋まつりなどのイベント撮影では、町内外から訪れた方々と交流を深めながら、充実した時間を過ごすことができました。

1年を通して撮影した写真は、秋の「大江町文化祭」にてパネル展示を行ったほか、公式サイト「おおえぐらし」やInstagramでも日々更新しています。ぜひ、町の今を感じていただければ幸いです。



佐藤瑛吾

さとう
えいご

「山里交流館の平日・地元利用増加」



1年目

出身地 ● 山形県朝日町
(山形市在住時に応募)
着任 ● 令和7年4月

私は昨年3月まで東北芸術工科大学に通っていました。大学の卒業式を終えた数日後に協力隊着任が決まり、4月から新社会人として大江町での生活が始まりました。やまさあーべでの活動は、新しい経験の連続です。特に連休に行く宿泊型のイベントは、子どもと関わることが大好きな私にとって、とても楽しく感じています。

私と大江町を結び付けてくれたのは3年前の冬、大学の授業で柳川温泉の雪まつりに参加したことです。子どもたちや地域の方とかまくらを作り、夕方にはやまさあーべでカレーライスを作りました。当時の私にはこの経験が印象深く心に残りました。それ以来、授業だけでなく個人的にボランティアとして参加するようになり、やまさあーべに何度も足を運ぶようになったことが、協力隊を目指したきっかけです。

「仕事をする」を学ぶ1年

今年度はやまさあーべを拠点に、主に季節に合わせた体験プログラムの提供、その準備を行ってきました。社会人としての基礎を学ぶと同時に、生きものや自然との関わり方について、少しずつ理解を深めてきました。

これまでイベントにはボランティアとして参加していましたが、スタッフとして関わることで、細かな準備や判断の積み重ねによって成り立っていることを実感しました。思うように動けず戸惑う場面も多くありましたが、その度に周囲の方に支えていただきました。これまで経験したことのない出来事に向き合う日々で、ひとつひとつ経験を積み重ねてきました。社会の一員として成長できた一年だったと感じています。



初めてのガイド



初めてお客様をガイドしたのは本郷東小学校5年生の子どもたちでした。6月に「冒険学校」という授業の一環として、やまさあーべで一泊し、様々な自然体験を行いました。当日は薪割り・火おこし体験のガイドを務めさせていただきました。薪の太さに合わせて2つの道具を使った割り方に挑戦し、割った薪に火をつけ調理をする体験です。

道具を使う場面では常に怪我の危険が伴います。薪割りでは各工程で想定される危険や道具の使い方を丁寧に説明し、実際の動きをしっかりと見せることを意識しました。

ガイドをして難しいと感じたのは、作業の中で子ども達から出てくる疑問に、その場で納得のいく形で答えることです。自分自身が工程を理解していなければ、相手に分かりやすく伝えることはできません。例えば、火おこしをする時は、出来るだけ細い薪を用意することが重要になります。細い薪は温まるのが早く、積み上げても空気の通り道が確保しやすいため、小さな火種でも着火できます。燃え移った後、くべる薪を徐々に太くしていくことで、調理に適した安定した火になります。

こうした理由を簡潔に伝え、お客様が安心して体験できる環境を作ることが、やまさあーべで活動するうえで重要だと思います。

イベントを企画して知った 本当の大変さ、面白さ

9月13日(土)から15日(月祝)にかけて、2泊3日・小学生限定イベント「目指せ!超・水遊びマスター」にて、全体の企画・宣伝・ガイドを担当しました。やまさあーべで人気の水のアクティビティに加え、魚のつかみ取りや巨大なシャボン玉を作るなど、新規プログラムを考案しました。初めて主となって携わったイベントでしたが、怪我や事故なく終わることができたものの、自身の準備不足を強く感じました。

反省点として、事前のスケジュール設定や各プログラムの想定が不十分だったことが挙げられます。準備段階で時間に追われ、当日の進行に調整が生じる場面がありました。自分自身で全体のイメージを明確にすることが重要だと感じ、イベント運営の難しさを知りました。

一方で、11月に開催したイベントでは、成功の実感が得られました。11月22日(土)から24日(月祝)に開催した「目指せ!クッキングマスター」では、パフェ作り体験の企画・ガイドを担当しました。町内で採れたリンゴとら・フランスを主役にパフェを作り、子ども同士で写真撮影を行い、その写真をプリントしてお土産にするというものです。その結果、半数以上の参加者から「楽しかった!」と答えていただきました。今回のプログラムでは工程ごとに一度手を止めて説明を行うことで、スケジュール通りの進行ができました。ひとつひとつ区切ったことで作業が明確になり、満足度が高くなったのではないかと思います。これまでの進め方では統率が十分でなかった点にも気づくことができ、企画や運営において大切な要素を学びました。



来年度に向けて

今年度は初めてだらけの中、日々の業務やイベントを通してじつりと学んできました。まだまだ実力不足、経験不足であることも実感していますが、多くのヒントや気づきを頂きました。

やまさあーべでは、年間を通して町内の保育園や小学校の子ども達に利用していただく機会があります。町内子ども向けイベント「生き物キッズラボ」や、にじいろ保育園の子どもたちが四季ごとの環境

今年度は初めてだらけの中、日々の業務やイベントを通してじつりと学んできました。まだまだ実力不足、経験不足であることも実感していますが、多くのヒントや気づきを頂きました。

やまさあーべでは、年間を通して町内の保育園や小学校の子ども達に利用していただく機会があります。町内子ども向けイベント「生き物キッズラボ」や、にじいろ保育園の子どもたちが四季ごと

池田秀子

いけだ
ひでこ

「木育で山や木に触れあう機会の創出」



1年目

出身地 ● 神奈川県横浜市
着任 ● 令和7年8月

昨年8月、小学生の子供と一緒に横浜から大江町に移住してきました。山形県は、幼少期から親戚の家に遊びに来ており、隣町の西川町では15年間働いていたのでとても馴染みがあります。自然や生物が好きな私にとって山形県は魅力的な場所です。

大江町に移住する切っ掛けは、地方での子育てと森や自然に関わる仕事をしたかったことです。私は、空が広い土地で子供を育てたいと考えていました。そんな中、一昨年東京で開催された「ふるさと回帰フェア」で、森林や木育関連の大江町地域おこし協力隊募集について聞きました。私はとても興味がありましたし、主人も応援してくれたので公募後すぐに応募しました。



もくいく 木育って何？

私の活動のテーマである「木育」という言葉を皆さんは聞いたことがありますか？初めて聞いたという方もいると思います。木育は、「木と親しむ活動」のことで、2004年「すべての人が木とふれあい、木に学び、木と生きる取組み」として北海道で提唱されました。国や県も積極的に推進しており、背景には林業従事者の減少、森林荒廃など様々な森林問題があります。その中で木育は、日本の森林について考えてもらう糸口として注目されています。では、木育は何をするのでしょうか。木のおもちゃ遊びや木工作、自然観察会、森づくり活動、山菜・キノコなどの食のワークショップなど多種多様。木育は人の五感を刺激して心身の健康にも優しい活動です。

大江町緑の少年団をSNSで発信!

大江町緑の少年団は、町内の小学校の4年生が団員となり自然体験学習や林業見学など郷土の森や自然に親しむ活動を行っています。今年度は、山形県緑の少年団交流研修大会、間伐見学会、製材見学学習会などが行われ、私は子供たちのサポートや記録撮影などを行いました。間伐見学会での“ドーン!”と響いた伐倒音や足元の揺れ、製材見学会での製材したての木の手触りや香りを体感した子供たちの顔は印象的でした。この大江町自慢の取り組みを町のSNSで発信したところ、とても好評だったので今後も継続的に情報発信を行いたいと思います。



木育のおはなし会

令和7年11月2日(日)、“うっでいくらぶ もくもく”が主催の「木育ひろば」(場所:大江町中央公民館)で木育について講演しました。「うっでいくらぶ もくもく」は、昨年7月に発足した地域の木育団体で、子供たちに西山杉製のおもちゃ遊びを提供しています。当日は、クリスマス工作もあり多くの子供や親子連れが訪れていました。講演会では、木育って何?どんなことするの?などスライドを交えて紹介し、木育を知ってもらおう切っ掛け作りができました。

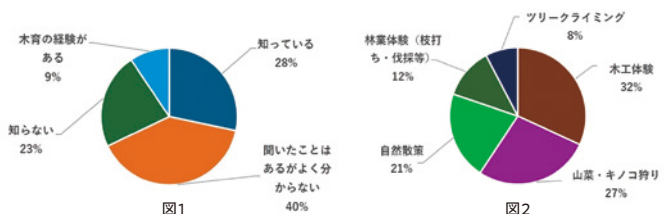
“おおえの物産味覚まつり”で新企画

大江町の秋の一大イベント「おおえの物産味覚まつり」。令和7年11月9日(日)に左沢駅前広場で開催され、「美しい森林(もり)づくり協議会」のブースに参加しました。出展では大江町型住宅模型の展示、新企画の子供を対象とした木工クラフト、木や葉、どんぐりを使ったゲームを行い、たくさんの子供や親子連れに集まっていただきました。特に木工クラフトには50名以上参加しスタッフが対応に追いつかないほど大盛況でした。また、木育に関するアンケート調査(50人)を実施したところ、木育への関心度が分かったので、今後の活動に活かしたいと思います。



図1 木育を知っていますか?

図2 木育で何をしてみたいですか?



木育でMORIと人をつなぐ試み

大江町は昔から林業が盛んな地域です。しかし、年々林業の担い手減少や森林の高齢化(=太い木が増える)などが課題となっています。課題解決には、様々な角度でのアプローチが求められており、その一つが若い世代に「森林に興味をもってもらう」活動です。今年度は、緑の少年団や木育講演会、木工ワークショップなどの木育活

動を行いました。来年度は、大山自然公園や大頭森山をフィールドにした「親子里山教室」や移動型木育「おおえ森のキャラバン」など新たな木育活動も計画中です。これからの活動が若い世代と大江町の森林(MORI)をつなぐ糸口にしたいと思いますので、皆様よろしくお願いたします。

金澤 彩

かなざわ
あや

「道の駅おおえの広報担当」



1年目

出身地 ● 神奈川県横浜市
着任 ● 令和7年8月



神奈川県横浜市で生まれ育ちました。地元の大学を卒業後、メーカー系の会社に就職し約5年勤務。夫が大江町で農業をしたいとの思いから、東京で行われている移住フェアに夫婦で参加。その際に大江町で地域おこし協力隊の募集があることを知りました。道の駅広報担当というミッションに直感的に惹かれ、また、四季折々の自然が感じられる大江町に魅力を感じ、夫婦で移住することを決めました。

道の駅広報担当の活動内容は主に、道の駅公式Instagramの更新および道の駅の情報発信です。着任してからはInstagramのほかにも、FacebookアカウントやTikTokアカウントを立ち上げました。またテレビやラジオなどに出演し道の駅おおえのPRを行っています。

道の駅の広報担当として

主なPR活動として、各種SNSの更新、メディア出演を行いました。はじめは道の駅おおえのInstagramのみの運用でした。しかしInstagramアカウントだけで閲覧する年齢層に限られるとの懸念点がありました。そこで新たにFacebookとTikTokアカウントも立ち上げました。それぞれのSNSで投稿する内容は基本的に同じです。しかしSNSの種類によって動画の閲覧数やリアクションが異なり、私自身も勉強になりました。また以前より多くの年代の方々に道の駅おおえの情報が届いていることはいい点だと思います。

メディアにも積極的に出演しました。着任後初めてのテレビ出演は、YTSゴジダスの「やまがた元気プロジェクト ふるさと通信」で10月3日に放送されました。そこでは道の駅おおえの紹介や10月4日・5日に行われた1周年イベントの告知を行いました。翌日10月



主なPR活動として、各種SNSの更新、メディア出演を行いました。はじめは道の駅おおえのInstagramのみの運用でした。しかしInstagramアカウントだけで閲覧する年齢層に限られるとの懸念点がありました。そこで新たにFacebookとTikTokアカウントも立ち上げました。それぞれのSNSで投稿する内容は基本的に同じです。しかしSNSの種類によって動画の閲覧数やリアクションが異なり、私自身も勉強になりました。また以前より多くの年代の方々に道の駅おおえの情報が届いていることはいい点だと思います。

道の駅を起点とした大江町全体の魅力も発信



今まで道の駅おおえのInstagramアカウントは主に商品紹介がメインでしたが、12月より新たな試みを始めました。それは「道の駅おおえをゲートウェイとし、大江町全体の魅力をショート動画で発信する」というものです。月に1回ほど、30秒から45秒程度の短い動画で、道の駅おおえともう1カ所を、私が巡っていく体験記のような構成になっています。

初回は道の駅おおえと柳川温泉を巡りました。道の駅で冬季限定もちもちラーメン、柳川温泉では足湯に浸かりながらソフトクリームを食べる動画を撮影しました。テーマは「少し贅沢気分を味わえる週末旅の提案」です。

2回目は「お正月食べ過ぎたおなかに優しいおやつ」というテーマです。まちなか交流館ATERAのデザートプレートと道の駅おおえの肉まんまで温まるという構成になっています。どちらの動画も好評でたくさんの人に見ていただきました。また動画を見て商品を購入してくれる方もいて、私もやりがいを感じました。このシリーズは大江町全体の魅力も発信できるので、今後も続けていきたいと思っています。たくさんの方に届くことを期待しています！

道の駅おおえ
コラマガセ【公式】



Instagram



Facebook

学生たちの活動拠点にも

道の駅おおえは学生とのコラボレーションも多く、私も携わる機会がありました。1つは左沢高校生の総合学習の探求の授業です。高校生が発案したレシピを道の駅おおえで売り出すというものでした。大江町産の果物を使った若者の心をつかむメニューとして「秋色ぶどうのスペシャルサンデー」が完成しました。販売時期、販売個数や価格まで道の駅レストランスタッフや駅長との打合せを重ね、生徒たちと考え抜きました。10月19日の日曜日に11時から13時の2時間、30個限定で販売しましたが、当日は1時間15分ほどで完売しました。これは当初の予定を上回る売れ行きで、高校生たちも嬉しそうでした。

10月23日には大江中学生の総合学習「大江町未来創造計画 大江中生の日in道の駅おおえ」が開催されました。10年後も住みやすい大江町を作るため、生徒たちが10班に分かれそれぞれ考えたアイデアを道の駅おおえで実現しました。大江町の良い所を紙に書いてもらうメッセージアートの実施や、地域の幼稚園児との交流をしていた班もありました。店内でスタンプを集めて回るスタンプラリーの開催などもあり、中学生たちのアイデアが光りました。また店内外問わず



左沢高校2年次 探究授業



大江中学校 大江町未来創造計画

お客様に声を掛けている場面も多く見られ、中学生の積極性に感激しました。

他にも左沢高校生の農産物即売会や、幼稚園児、保育園児たちのお歌の披露など、道の駅では定期的にイベントを行っています。子どもたち、学生たちの活動もInstagram、Facebookに掲載しているのでぜひご覧ください。

2年目に向けて

着任してから約半年、慣れないSNSの更新に苦戦したり、メディア出演に緊張したりと今までの自分では想像できない経験をさせていただきました。役場職員の方たちや道の駅スタッフの方々に助けられ何とかここまでやってこられました。ありがとうございます。来

年度はこの半年の経験を活かし、もっと道の駅おおえの魅力を発信し、集客に貢献できるよう活動していきたいと思っています。また今後は町内のイベントにより積極的に参加し、大江町をもっともっと知ってほしいです。

地域おこし協力隊とは

都市から人口減少や高齢化が進む地域に移住し、地域力が高まる活動をしてもらう制度です。都市の住民は、豊かな自然環境と歴史文化の中で、地域社会に貢献できる機会を得ることができます。市町村等の自治体は都市住民を地域おこし協力隊として受け入れ、隊員は、最長3年間、地域協力活動に取り組みます。総務省が、平成21年にスタートさせました。

令和6年度は全国で7,910人の隊員が活動しました。

大江町では、平成25年度から地域おこし協力隊の受入を開始しました。令和7年度まで23人の隊員が着任し、様々な分野で活動しています。

地域おこし協力隊はどの隊員も「大江町初心者」です。お会いする機会がございましたら気軽にお声がけいただき、温かくご指導賜りますようお願いいたします。

令和7年度 大江町地域おこし協力隊活動報告書

執筆 大沼瑞季、神保南、宮西優輔、小角さくら、佐藤瑛吾、池田秀子、金澤彩

発行 大江町地域振興課 〒990-1101 山形県西村山郡大江町大字左沢882-1 TEL0237-84-1503